

	3 自分のスピーチについて、各部分のまとめりと順序、構成を工夫する。	20	<ul style="list-style-type: none"> 児童の表現力や学習適性に応じるため、3種類のワークシートを準備する。 思うようにまとめられない児童は教卓のところに集めて、付箋紙を用いた方法を指導する。 机間指導を繰り返す。
	工夫④ 個に応じた支援の工夫		「結論、理由、まとめ」という構成のスピーチメモを書くことができたか。(観察、ワークシート)
終末	4 本時の学習のまとめをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> OHCとプロジェクタを使用して、2～3人のスピーチメモを投影し、紹介する。 内容だけでなく、本時のめあての順序や構成に関わる称賛をすることにより、学習をまとめる。

IV 授業の実際

① 教材を提示する

一つのスピーチ例を録音し、スキヤントークのデータ化した三つの部分に分け、順序を入れ替えた3枚のカードを黒板に提示し、スキヤントークリーダーで1枚ずつ音声を再生する。

T 前の時間に、みんなの夢を話してもらいました。ここにも、ある人が夢について話したものがあんだけど、順番がバラバラになってしまいました。ちょっと、聞いてくださいね。

T (スキヤントークのデータを1枚目のカードから読み込んで再生する。)
「それは、ジャイアンツの松井選手のようにホームランをたくさん打ってみんなを喜ばせたいからです。」(A)

T (同じく2枚目、3枚目も無言のうちに再生する。)
「僕の将来の夢は、プロ野球の選手になることです。」(B)
「そのために、これから15時間、毎日素振りを百回するこ

とに決めました。皆さん、応援してください。」(C)

C (児童は真剣な表情で聞いている。3枚目の再生が終わるや否や、カードを指差しながら口々に、) できた。1・2・3。真中から1・2・3。(と適切なスピーチの順序を考えていた。)

T ちょっとこれ、顔だけじゃ分かんないから、つけておくれ。(とA・B・Cと書かれた磁石を貼り付けた。)



(話し合いの後、並べ替えたカード)